

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	テクノロジー・インターンシップ
	学部・研究科等名	工学部
	担当教職員名・役職	鈴木孝昌・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	10
	受入企業等名	株式会社長岡バイオキューブ、日揮触媒化成株式会社、新潟市水道局、新潟市民芸術文化会館
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外で実施している就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目では、企業側で適した課題を組んで頂き、課題解決を含めた就業体験を実施している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習については授業期間内に行い、インターンシップ及び事後学習については主に休業期間に行う。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	・企業調査、【社会人基礎力】を用いたセルフチェックシート(5段階評価)・この科目の理解を深めるため及び意識調査するためのレポート(A4、3枚程度)・マナー講習
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	・週報の作成・外部評価組織(100人カネネットワーク)及び教員が参加する発表会での口頭発表及びポスターセッション・【社会人基礎力】を用いたセルフチェックシート(5段階評価)・事前と事後で振り返りレポート・インターンシップを行った上での感想報告レポート
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中に一度、学生及び企業の担当者と面談を行う。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている,3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	【社会人基礎力】の項目を用いたセルフチェックシート(5段階評価)及び意識調査及び振り返りレポートをインターンシップ前後に実施している。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間1ヶ月間

要素⑤	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間は主に休業期間中を利用し1ヶ月間、事前事後学習の期間はおよそ5日間(レポート指導、マナー講習、発表会等)。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事後学習にて、発表会(口頭発表及びポスター発表)を開催しており可能ならば企業の方にも参加頂いている。また、毎年2月に開催する教育学習成果発表会には、受け入れ企業の方も呼び、学生の発表を聞いたり、アドバイスをいただいたりしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus-niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2016/09/09_160T8009_ja_JP.html http://syllabus-niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2016/09/09_160T8010_ja_JP.html
問い合わせ先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部連携教育支援課
	担当者役職名	専門職員
	担当者氏名	橋本謙司
	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp